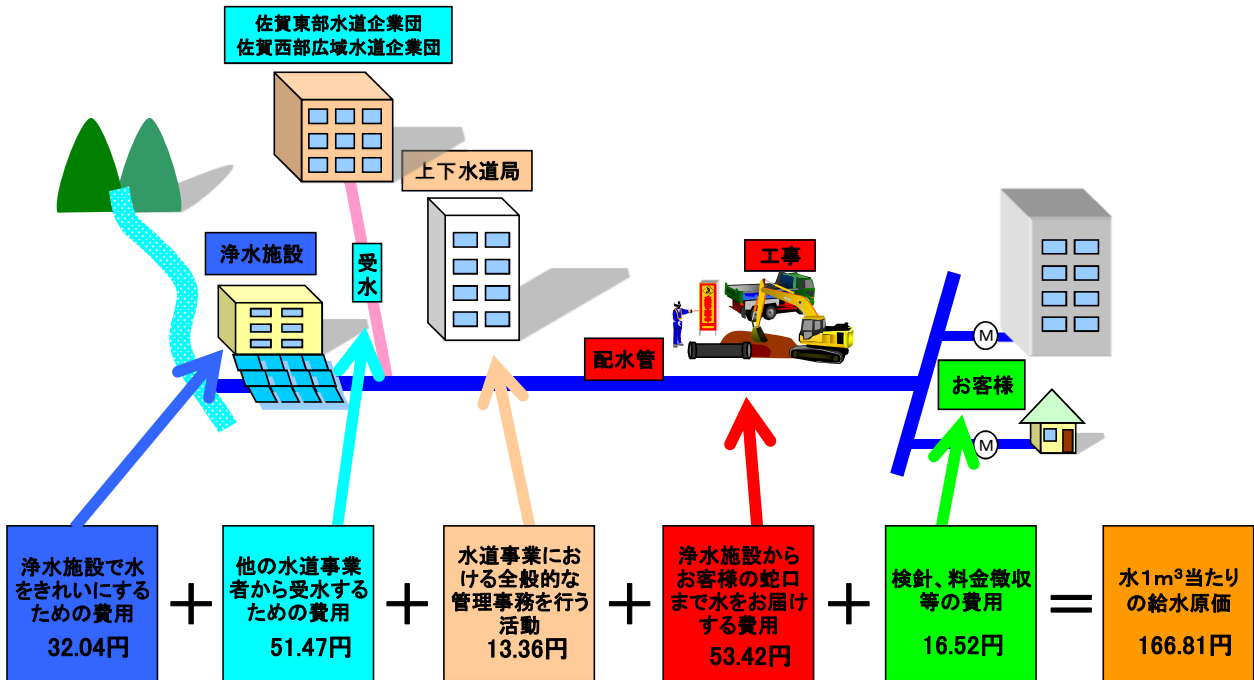


ABC分析結果（水道事業） （令和4年度現在）

※令和4年度決算（令和4年4月1日～令和5年3月31日）数値より

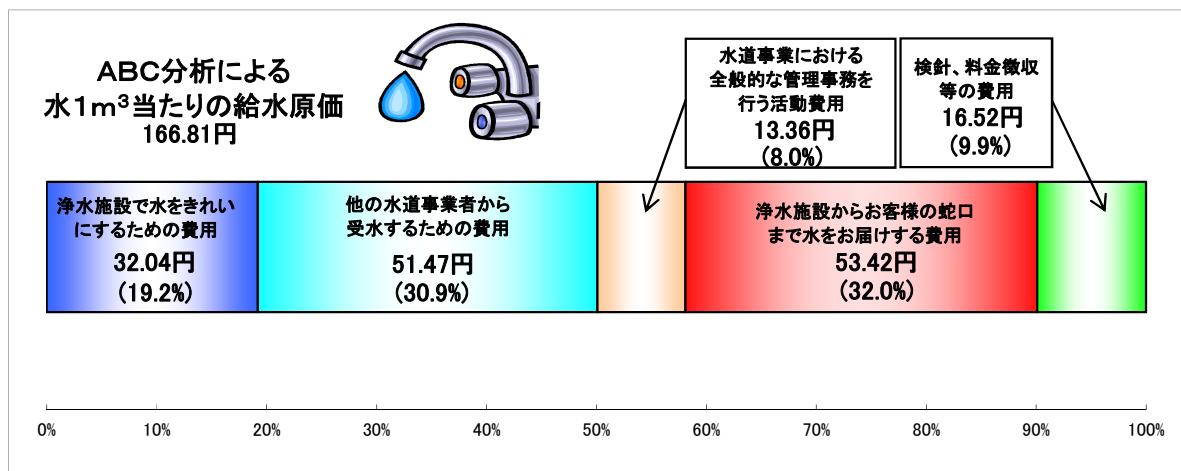
1. ABC分析のイメージによる結果



ABC分析給水原価(単位:円)

年間有収水量 20,101,176m³

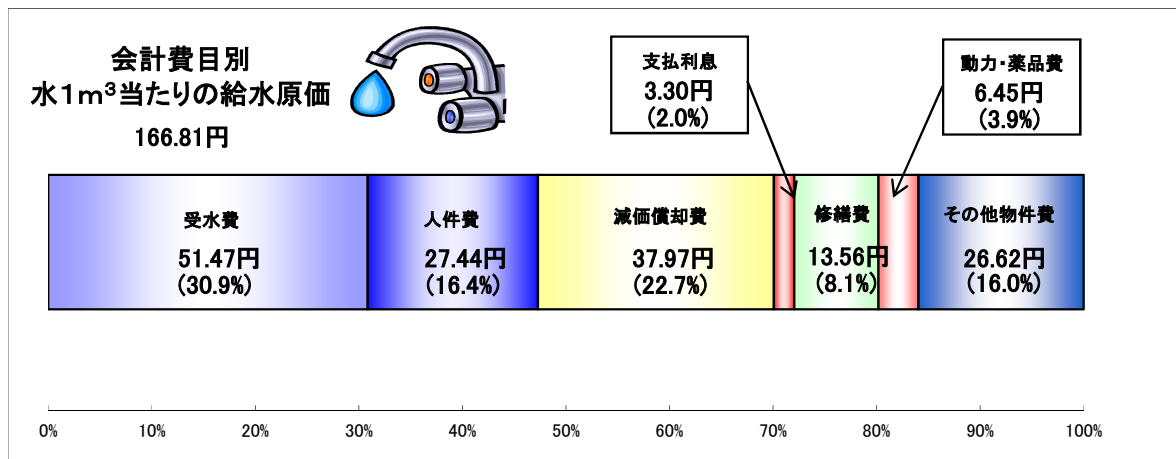
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
浄水施設で水をきれいにするための費用	32.04	643,977,117	19.2%
他の水道事業者から受水するための費用	51.47	1,034,689,445	30.9%
水道事業における全般的な管理事務を行う活動	13.36	268,519,818	8.0%
浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用	53.42	1,073,721,526	32.0%
検針、料金徴収等の費用	16.52	332,079,934	9.9%
計	166.81	3,352,987,840	100.0%



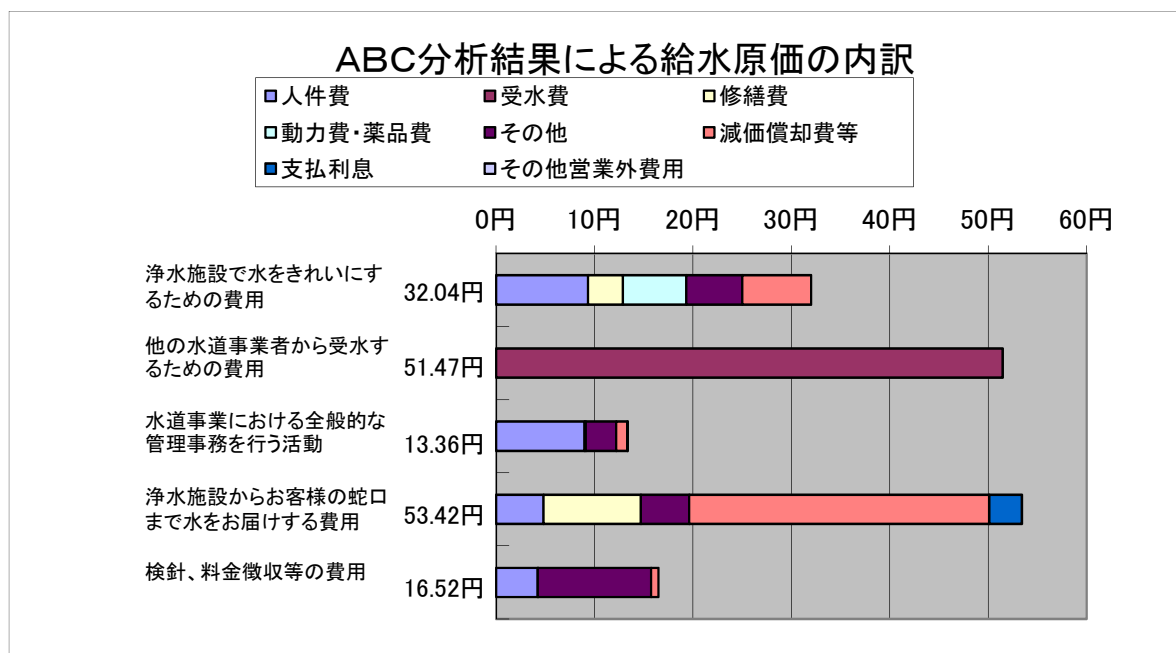
2. 参考

会計費目別給水原価(単位:円)

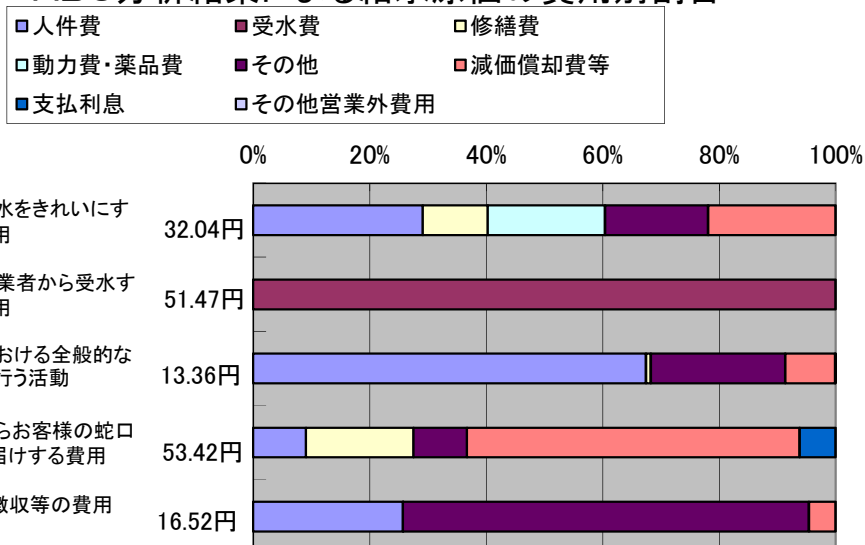
	給水原価(円)	税 抜 額 (円)	割合
受水費	51.47	1,034,689,445	30.9%
人件費	27.44	551,577,503	16.4%
減価償却費	37.97	763,093,609	22.7%
支払利息	3.30	66,385,931	2.0%
修繕費	13.56	272,501,909	8.1%
動力・薬品費	6.45	129,660,885	3.9%
その他物件費	26.62	535,078,558	16.0%
計	166.81	3,352,987,840	100.0%



3. ABC分析グラフ



ABC分析結果による給水原価の費用別割合



【分析結果】

給水原価は本年度166.81円で、「浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用」が給水原価の32.0%、「浄水施設で水をきれいにするための費用」が19.2%と、これらの費用で全体の約半分(51.2%)を占めています。また、「他の水道事業者から受水するための費用」が30.9%となっています。

給水原価を構成する会計費目では、受水費(30.9%)や減価償却費(22.7%)、人件費(16.4%)の順で割合が高くなっています。

水道事業は「装置産業」と言われ、資産のほとんどが配水・給水施設(お客様の蛇口まで水を届けるための施設)や浄水施設(水をきれいにするための施設)で占められています。そのため、これらの施設に係る減価償却費や施設の維持管理のための人件費、修繕費などの割合が高くなります。

今後も、施設の老朽化に伴う改築・修繕経費や、耐震化などの災害対策経費の増加が見込まれますが、安全で安心な水道水の供給を途切れることなく続けていくため、「上下水道ビジョン」及び「水道事業経営戦略」に基づいた効率的な事業経営を進めていきます。